



虹の架け橋

平成30年5月18日
印西市立西の原小学校
校長室便り No.4

健闘！第三部会陸上競技大会

5月16日(水),晴れ渡った空のもと,気温が急激に上昇していく中,松山下運動公園で第三部会陸上競技大会が開催されました。これは,白井市から9校,印西市から20校の小学校合計29校の代表児童が陸上競技種目で記録を競い合う大会です。白井市,印西市の児童約1400人を含め,教員及び保護者や来賓の方々等2000人以上が見守る中,西の原小学校の選手たちは,日頃の練習の成果を発揮しようと大会に臨みました。



寒い冬の最中から一生懸命に取り組んできた陸上練習。印旛地区陸上競技大会出場を目指す子,優勝もしくは入賞を目指す子,自分の記録更新を目指す子...練習に参加した子どもたちの目標は個々に違います。それぞれが自分の目標達成に挑んできた日々だったことと思います。



大会では,緊張しながらも背筋を伸ばし競技に向かう選手たちの真剣な姿がこちらこちらで見られました。一方,西の原小学校の名前が放送されるたび応援団からは力強い歓声が上がりました。また,リレーや中距離走など,選手たちが応援団の前を通り過ぎると声援は一段と大きく響きました。選手たちはその声に押され,さらにパワーをアップしているように感じられました。

そんな大会で,見事入賞を果たしたのは以下の種目です。(児童名は学校だよりでお知らせします。)

- 100メートル走6年生女子(8位)
- 80メートルハードル走6年男子(5位)
- 走り幅跳び5年女子(3位)
- 走り高跳び5年女子(3位)
- 4×100メートルリレー6年生女子(7位)
- 80メートルハードル6年女子(5位)
- 1000メートル走6年男子(4位)
- 走り幅跳び5年生男子(8位)
- 走り高跳び6年女子(6位)



100メートル走8位の6年生女子,走り幅跳び8位の5年生男子,走り高跳び6位の6年生女子,4×100メートルリレー7位の6年生女子については,残念ながら印旛地区大会への出場権は逃してしまいましたが,自己ベスト更新という素晴らしい記録も次々と生まれました。しかし,選手たちに結果について尋ねてみると多くの子が満足できなかったと答えていました。選手たちは,もっともっと高い目標を持って大会に臨んだことを実感しました。同時に,そんな思いを子どもたちがもっていることに頼もしさも感じました。

今,若者の反骨精神の脆弱化が危惧されています。勝負に負けても,何かができなくても,「別に何とも思わない」という言葉が返ってくる場面を多く見るようになりました。「悔しい」と思う気持ちは,「さらにはがんばろう」という意志を強くします。悔しいのだったら,結果に満足するために何をどうすれば良かったのか,これからどうすればよいのかということを考え,実行していくことが求められるからです。ただし,「何をどうする」の考えと実行力は「本気」がないと実現はしません。

「悔しい」気持ちをもてることは必ず次の成長につながっていくと思います。悔しさをバネにして最高の満足感を得ることができるよう,子どもたちが経験を通して感じたことを次の成長のステップにつなげていくことができるように,私たち教職員は子どもの「本気」を育てなければならぬと強く思っています。

保護者の皆様には,朝練への対応,食事やお弁当作りなどへのご理解とご協力に感謝いたします。これからも,子どもたちの見守りとご支援,ご協力をよろしくお願いいたします。

